



創立者の精神『ほんとうのわが家』

教頭：中津真貴子

□先月4月17日は、本学院の創立者マルグリット・プールジョワの誕生日でした。そして今年には創立者生誕400周年の年です。

今年度、各教室に右の肖像画を掲示しました。これは、1658年、マルグリットがモンリオールに初めて学校を開いた時の様子です。最初の学校は家畜小屋として使われていたものでした。マルグリットはこれをモンリオールでの「ほんとうのわが家」とするべく、子どもたちとともに愛をこめて準備しました。



いよいよ今日から分散登校という形で子どもたちを迎えました。一か月ぶりの登校にお子さんの様子はいかがでしたでしょうか。教職員はもちろん、学校全体が子どもたちの登校を心待ちにしていました。新年度開始早々、保護者の皆さまには多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

今年度も創立者マルグリット・プールジョワの精神に倣い、この学校を子どもたちに「ほんとうのわが家」（自分の居場所）の一つと感じてもらえるよう、「今、必要なこと」を考え、実践していきたいと思ひます。

「学院宗教主事からのごあいさつ」・・・Sr. 鶴野 篤子

4月より桜の聖母学院宗教主事として参りました。コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の修道女です。本来でしたらもっと早くに皆様にご挨拶できたのですが、このように緊急事態の状況となり、この場を持つてのご挨拶となりました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ご存知のことと思いますが、桜の聖母学院小学校は市内唯一のカトリック学校です。従って学院には、国公立の学校には無い独自の創立者の精神と教育理念に基づいた教育が伝統的に行なわれています。ここでは紙面に限りがあるので毎年行われている行事の一つをご紹介します。

新一年生が入学して最初に体験するのが「マリア祭」です。「青葉若葉に風香りで…」保護者の皆様の中には、思わず懐かしいメロディを口ずさむ方がいらっしゃるのではないのでしょうか。一年中で最も美しい5月、みんなが大好きなマリア様を囲んで、それぞれが持ち寄ったお花を捧げて喜び讃え歌うのです。

マリア様はイエス・キリスト様のお母様です。イエス様は人となられた神のみ子です。わたしたち人間のあらゆる罪の贖いとなって、十字架上で御自分を父である神様にお捧げになったのです。マリア様は、イエス様の救いの業の苦しみに共にあずかられました。

マリア様は、わたしたちを守るために今もいつも祈っておられます。

今、世界中が直面しているコロナウイルスの感染が一日も早く終息するように、マリア様に信頼して祈りましょう。

お知らせ・お願い

制服の移行期間 (生活指導部)

- ・5月18日(月)～6月12日(金)まで「制服の移行期間」になります。
- 6月の衣替えを迎えるまで、その日の天候に合わせて、夏服を着用することができます。
- *5月末まで女子の制帽は冬服用。6月1日からは、クレマン帽(麦わら帽子)です。
- *校章のつけ忘れのないように。

～マリア祭～ (宗教科)

登校再開となった場合、今年度は、児童のみ、放送にて実施します。本学院宗教主事Sr.鶴野篤子先生に講話をしていただきます。

「1学期の諸経費集金」の引き落としについて (事務室)

「1学期の諸経費集金」は5月25日(月)に引き落としになります。よろしくお願いいたします。

「牛乳・給食」について

開始日が決まりましたらお知らせいたします。

《福島市からのお知らせ》

福島市新型コロナウイルス感染症型防災訓練に伴う「緊急速報メール配信の訓練」を下記の通り実施します。スマートフォン・携帯電話が一斉に鳴り出します。

〇日時：令和2年5月16日(土) 午前8時45分ごろ

児童会：前期 各委員会委員長

- 《 学級：委員長 [] 》 《 図書：委員長 [] 》 《 奉仕：委員長 [] 》
- 《 放送：委員長 [] 》 《 保健：委員長 [] 》 《 整美：委員長 [] 》

聖母月実行表の記入について～宗教科 定方 一悦～

カトリック教会では、5月を「聖母月」としています。本校では、「聖母月の実行」として一か月間善行に励み、最後に「マリア祭」を行ない、その実りを神さまとマリア様に捧げます。

今年は新型コロナウイルスの影響で、全員揃ってロザリオのお祈りをしたり実行の様子を話し合ったりすることができません。そこで実行表を家庭に持ち帰り、手伝いの記録をすることで、「実行」としたいと思います。室内にこもりがちな日が続きますが、逆に家庭内で決まった役割を持ち、責任を持つて行なうよい機会です。ご家庭でもお子さんが喜んで実行できるよう声を掛けてくださると幸いです。また、登校する日には、久しぶりに友だちと会って感じたことを書き、休校中に感じたことの振り返りをしたいと思います。この聖母月の実行が、私たちの母となってくださった聖母マリアに倣おうとする心を育てるよい体験になることを祈っています。

ミニコラムNo.45 「『今の自分にできること』を大好きな場所で」

養護教諭：中村 恵理

□4年間離れた聖母小へ今年度戻ってまいりました。1年生だった子どもたちが6年生となり、立派なお兄さん、お姉さんになっている姿は、とても感慨深いものがあります。

私自身も幼稚園から中学校まで桜の聖母で過ごしていたため、慣れ親しんだはずの「ごきげんよう」の挨拶。旧校舎からの引越しの際、私自身が移動したはずの検診機器。特別教室の場所。4年間で忘れかけていたことを今、ジグソーパズルのピースを一つ一つはめていくような気持ちで、少しずつ思い出している状況です。まだ子どもたちと過ごした時間は短いですが、聖母幼稚園出身の子どもたちや6年生が「覚えています」と声をかけてくれたことで、「ああ、大好きな場所に戻ってきたんだなあ」と嬉しく思っていました。まだジグソーパズルの完成は遠く感じているのですが、「今の自分にできること」を一生懸命していきたいと思っています。このような状況でも子どもたちが心も体も健康に過ごせるよう、サポートしていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。